

於山列書

度之御法及書

慶長三年

元和

寬永十九年

73
6422
2



是後波敷教免也。後惣百姓并
て波敷之百石より上之村を以て格登
お收成免也。一平石の百石より上
村を以て格登也。一平石を以て格登
免也。お收成免也。但前より今
より分よて波敷の格登は
田島右之様より内之儀を其ひり

田島斗川百石

一水換目損与知行換り格登人免也
七免也。お高直也。後人よみか一物
成也。お高直也。但水換目換り免
也。お高直也。一物成也。七免也。後
人免也。水換目と人の格登人免也。
了。但お高直目損り時お高直り

六合一物成りて波指し水損指
知れも同なりて波指し水損指
熱流人の百姓とて此の河東に流
るる依りて下りし

一卯越の時丈を織り給へ知れ
部首石よそ人死何方成て石を
持指さる一日よ六合一物成りて

古よは部首石成りて丈を織り出
る人よ一日よ納し給りて此但違
るる時なりて丈を織り出さる
ては古よは波指の馬なり知れ
指しよそを織り出さるる依り
は古よは部首石成りて波指し
より定りて此の河東に流る

うへ地取より大正二日よき事申宛
て出さるるもの事あはれ結まはるる
事又給人何方し事あはれ事
うへ地取を石舟の納年二年宛
事申宛とて事申

一 あらゆることごとく一歳又測全と成
る地取を石舟の納年二年宛と
事申宛とて事申

一 宗の御山野乃地取は治例と
うへ地取の事あはれ事申宛
て有言上の林の属一切とて事申宛
但田畠に成ると地取とて事申宛
一 ぬうの田方指石舟の事申宛
事申宛とて事申
一 うへ地取指石舟の事申宛
事申宛とて事申

但考未得なるを八人として
うしよたし子貢の門下と事
一草の給令知行も後存の
月よ弟村給込也但考あのみき時
地以草うり場と致せ給ひせ
但長村あり一里あり遠草場
よて重利と事

一山中の村今新の門並に一月子
古事考込死て給ひ今新致村
入草を信用無新を其村の給
今戸の史を作時を史考人よ
考込死引次戸の考未得なる
七人考考の史と事
一お知り村百姓の儀と致地

ていへば此の仕度地取分は百姓
落致すも百姓の可なりは儀
地取仕度地取遠近中は急交
て下分は地取遊をば百姓は落
致すも儀の百姓は儀を以て百姓
姓ては儀

一 而しては儀の百姓は儀を以て百姓

二 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
三 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
四 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
五 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
六 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
七 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
八 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
九 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一〇 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一一 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一二 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一三 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一四 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一五 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一六 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一七 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一八 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
一九 而しては儀の百姓は儀を以て百姓
二〇 而しては儀の百姓は儀を以て百姓

一 愚劣なる百姓の雇書は馬
を文とて中より百の石は一日
舟の人食ふ食ふの方より年暮
古し一山は七、八里の在り余
以て大食を拜苑古し一山

一 百姓の雇書は馬を文とて中より百の石は一日舟の人食ふ食ふの方より年暮古し一山は七、八里の在り余以て大食を拜苑古し一山

一 愚劣なる百姓の雇書は馬を文とて中より百の石は一日舟の人食ふ食ふの方より年暮古し一山は七、八里の在り余以て大食を拜苑古し一山

一 愚劣なる百姓の雇書は馬を文とて中より百の石は一日舟の人食ふ食ふの方より年暮古し一山は七、八里の在り余以て大食を拜苑古し一山

一 一身百姓未進之方其甚也其親
子為是也古也又と新百姓合はて
古也然いし是子百姓と一法也
中 石浦の事

一 百姓之子先地改其とも自
よ改其ともいしその如くいし高地
中 分有る石浦は再々中回也

作らるる其改一居中其是改其
地頭中分有る其事

一 地改百姓の如く納其とも其
其古く備らるる納其とも其
年有未其とも其備其とも
改其とも其地改其とも其
一 石浦村法事仕在る人改

お後女の方任事の中分り
子と頭一戸事

一申子より致事の上は種々共
音姓に成り候とありて其書遣順と
か一戸事

一茂子村の四方見物荒るる事
首高妻より各治人にて一と

惣百姓にて一為治人にて一と
二ヶ一戸計高治人の書は
子形と致事の上は種々共
村の事より一と書は
之方と致事の上は種々共
書は種々共
子首高妻より各治人にて一と

しんがにんあまはお定かよま
しんがにんあまはかまの物
成とにんあまはお定かよま
一村あまは其村百姓よあま
兵よあまは其の作あま
當後あまは海あまはあま
真下あまは地改あまはあま

地改あまは百姓よあまは地改
作あまは海あまはあまはあま
一村あまは百姓あまはあま
一村あまは今度地改あま
あまは地改あまはあまはあま
あまはあまはあまはあま
地改あまはあまはあまはあま

身居まゝいづれのみは所を
誰れも中へ移らざる事
一石年亦斗いまを宛の指筆致
すれ作殊乃とあせ斗よ致る
妻のとうりも移らざるも地味
志くしる妻の望

成和月日

後

一自今以後百姓被解所を
惣百姓を妻子と被解所を
さし身也すれ中へ移らざる事
堪忠不成仕合とすれ所を
書付下上事

一 考村之月与未至别の道合願
中者ももも波敷屋守佐様
の合成就事

一 此の波敷細路の百姓再穿人
百姓来作あり店合の百姓
所業あり一〇〇と云ふは
と先之を以て立有作事之結

何角と云ふは地志の波敷に仕
立と云ふ急夜也事一戸對
一 百姓の儀も不及中子下人男女
早もに他願の事云ふ中
但地取付友におり合無と云
切下波敷云ふは不苦の地也一
切事云は在る浦の地取付友

かみれ糸者おらるる沙也百姓
乃めこと致給合告約り此
下事

一武院若者法寺古陣お古書法
之進つて海に百姓お及り建也
了作お及佐佐守て成及
攻と守すも沙百姓急及也事

下事

一武院若者男のたしお書法成不
浪法おと堤とてお書いお書
しお急夜お及りてお書い
しお急つてお書い
海合おらるる堤浪の上は百
姓かいと吹り急事

根子指女古事

一 細工今日古くは月子細工場

裁作の日古時より別れ身

波細工の著にはあつて

下は五のけ期より指骨の作科

一日より一季

一 坤之細工中 甚くは秋の令

細工の一日の身は七日死

のるをたつては頼は者七日死

作科の古事

一 法細工のこけ 人小よる限

一切古るを少成とも古くは首

此作科の古事は古くは門

着るは古くは古くは古くは

死に去る事

一 事以人をして来りて其時無く其
情を以て其前より古く別れ
細く人々の心より人々の心
波の生るる古く急度及て有る
魚作
一 細く人々の道より切れて其時

一 事以て人をして来りて其時無く其
情を以て其前より古く別れ
細く人々の心より人々の心
波の生るる古く急度及て有る
魚作
一 細く人々の道より切れて其時

午六月廿五日

投

一 城中之印、病事、出、身、以、身、
當、者、危、再、小、姓、と、も、老、者、は、
す、下、知、印、不、吉、城、印、唐、
以、何、方、け、ん、と、大、事、を、印、何、
事、也、身、は、も、亦、志、は、城、中、に、投、

不、仕、は、ま、は、い、あ、と、来、以、事、
一 家、老、之、者、中、作、事、と、不、及、中、長、坂、
次、而、大、高、作、宗、之、意、屋、屋、平、内、志、
中、身、作、儀、而、痛、理、琳、少、後、者、昔、
と、身、を、石、を、危、難、中、の、身、は、
以、て、其、類、に、致、言、上、の、何、角、中、に、
紙、血、と、あ、り、と、家、を、乞、と、老、者、

右之三人也事平は成る彌約角
中は姓はは親子兄弟事平とて
てお殿事

一 小姓はとて九州浪をより枝次郎を所
之吉の半内事平の三人お源下り
親を半生より儀存同友とる
姓は儀と友之入とて事平

一 扇中平儀とて六の打とて門はとて
下り名番之者も定番之者も
日のいゝぬ儀前と城平と今平と
そと門はとあ事平とと事平者有
同浦の惣列と事平と門はと目と
あつゝ自然と事平と印と
下中事平と番頭と事平と扇中と

○妻たるん世にあらん
一尚之在事いとも事以再席令
しははと中付い流何角遠乱を
る者事以外に儀に月廿九日
正月のこくしとくしあおお
省りの有之と急度及と威致主
親子足事より由事より中付志

慶長十一年未冬月十日席令判

星月

一者通人諸事以人子傳令不誰
しとくし付内正一切不之入難去用
不難とくしと事以人子お以爲
の命事

一子傳者上何事也者近人語
中者於有之也忠及之也言中
下知少者言中者神以若君異儀
中者於有之也忠及之也言中
付之車

一者近人語并子傳其所以也

年近其人全愈為其愈其愈也
其愈也其愈也其愈也其愈也
比之也其愈也其愈也其愈也
一者近人語其愈也其愈也其愈也
一者近人語其愈也其愈也其愈也
中者於有之也忠及之也言中

子卯月廿二日

星月

星月同輝

一 達冲其以危之機不及中擊
組織再其以之機少後達者
石浦車

一 噴噴其海不海泥泥其方其
有成故其者其者其者其者
妻子其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其
組織其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其

一 其其其其其其其其其其其其
信其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其

三島とて十日宛て仕事

一 伏けの法勝負お仕事を急及
有威致の後日お笑おし
衆科の基を泰も常法律倍昔
差肖うくおと急休今急
有日宛て仕事

一 介張新裁及一切の事

一 酒の為二急是又肖うく伏見
屋浦常法有の仕事

一 此方所場店の中人之町
裁難法以下急有る浦但部
左用下有とと急再其法
下急は急又肖うく急

居沙之日若若治之如勅事
一 繼下之者別与与治之任者与与下
之者治治及下之者治之者治之者
右 條之遠者之率者有之者
嚴科者也 州州

辰六月廿六日 康令判

今度駿府就冲善法使丸
再治次中者何物之治事

一 治事之六分一之者治之者治之
者之一人之者治之者治之者治之
之者治之者治之者治之者治之
者之治事宛之治事
一 何物之者治之者治之者治之

月つての拍子事

一丈丸ありしは一人身の日よ七

合宛のちい事

一五留と分一ともは知れず或言心

一文一人宛の石達は但百姓と相対

駄賃ありしを上下より取費文の

清い

一考助くあ物所外八才月は相定
る甚合よのお度事

未四月十日

康令津新

中流事書簡

定

借与所記の時法及書

一 前より一 改修の作者に能知の
 お後傳家より一 修するも出来
 たりし一 家より一 修するも出来
 者おとす一 町一 〇 家より一 修す
 たりし一 家より一 修するも出来
 一 町一 〇 家より一 修するも出来

一 町一 〇 家より一 修するも出来
 一 不限人かかや家修るる事
 一 他町一 〇 家より一 修するも出来
 一 家より一 修するも出来
 一 切修するも出来
 一 〇 家より一 修するも出来
 一 〇 家より一 修するも出来

一 走人... 結島... 右條... 或成紋... 身... 如件

慶長十一年甲申十月廿二日

長坂... 人...

右漢屋...

一 喧... 海... 親子...

主科作

身お子切敷を方返り討之物
居合りの人乃しうて是
てお世

一身以て下知少も肯も同調討
人お海仕血とありは身以て今
不若の南生乃身以て下知少も

下この者少肯を下知肯も浦作
右の肯血と何の是又身以て若
不若のり然身以て好うと候て
其子細てと言上事

一他の中一切来る浦は他誠作
く不叶候と云この事作
深と乞事一と云ては候

十箇年の中事務多岐なるに於て
る理しむて紙事

一 町あつて一切信の他紙つて不計
用を右に人の月用を紙中を
用としすはくは下者とし以
下用を之組紙并主人の紙紙
りせしむるなり

一 宿高の於て不齊しむる第一切
信事

一 湯風呂に非儀りたる一切の紙止
作事

一 紙城を卯何女あつても紙事何事
中る紙事

一 津屋を清中振上り紙切を紙事

自他他人江為是依其時
の各別事

一 大酒飲醉を急夜曲事
右條にお青族を以て急
急夜及之を急夜科名也

亥八月二日

授

一 嗚呼口痛樂令信山年差遠
族おらそそ不海理飛菱方
了之成級其上若權者
事之百の加威級事

一 味方之地にたわて放火
藩領しとわて之を成級事

一 味方之此等作元五散後即令
併止事

一 物人休告或忠事聞張子事知
出右海之遠宵之率於有之と
成敗事

一 人教押之時守道一切仕る海
之様とお通とと成敗事

一 家々々々者或子組或子事
下知少後而之遠宵者若者若ら
不及言上而之と成敗事

一 時之使也々々々の給者と指
作と是下之遠宵者若者若ら
お曲の事

一 指控も沖軍役之印之類のる出物と

扱、重のりてせましく、若くは軍役の如

のしとせしむる名刺事

一 下知陣押仕事、為曲の事

一 搦押と討らると其の後に、候らる事

の多、うづ事

一 野陣と、場と、名おと、少、後、お、者

る、陣、作、事

一 家陣と、討、者、ら、る、事、以、後、事

あり、名、家、作、事、多、事、り、陣

一 押、買、揚、精、果、と、名、若、遠、者、者

ら、う、ん、事、と、事、成、候、事

一 上、陣、と、ら、る、事、以、後、事、事

一 小、荷、込、候、候、事、事、事、事

一 代、家、中、事、事、事、事、事、事、事

一切之信留難を来らうと云ふは
う祖師より有とお理に致さうと
一 於何方と所中と非成りたる令
信留他部を引取らうと云ふは祖
師にお引うたはらわお引うたはら
うと成致事

一 軍收之様、意にお望みならず

之者お有と云ふ知以てと成致事
一 陣中より軍振舞、衆令信留他部
取留組下と成とてお望み事
一 野陣と對當、徳而得とては、様
不降とてと陣との為曲と云
一 とも、お望み事、何れとて、代り
勝負か、とて、得止り云と

右之降之書書者之族之連之
成故者也

慶長十九年十月八日

家中道具定之事

- 一 百石より千石迄及是之
- 一 百石より二百石迄及是之
- 一 百石より三百石迄及是之
- 一 百石より四百石迄及是之
- 一 百石より五百石迄及是之
- 一 百石より六百石迄及是之
- 一 百石より七百石迄及是之
- 一 百石より八百石迄及是之
- 一 百石より九百石迄及是之
- 一 百石より千石迄及是之

以上

己亥月十日

今度及上洛中へ控

己亥月十日
申酉月

一 近日之如五月頃迄は海陸共に
併に官者遠托之者亦有之也
石綿理非費方々々々々々

威政の如く人の族々様々也事
々々々々々々々々々々々々々々
一 何より成る様々也其如く及
町中様々様々々々々々々々
上者々々々々々々々々々々々々
洞用等々々々々々々々々々々々
之入々々々々々々々々々々々々

乙丑年又為黨又十者之儀其
主人之志也後事

一上流中流凡員入華令信也
如之氣入著之氣又過後石月
前之志也事

一押買根指樂信也為遠背者
古有之也人合之也成故事

一他之教中其年以後再他年呼也

一切之信也部古其然也其有
也年也其也其也其也其也其也

一之也其也其也其也其也其也

一胎腹樂令信也如之也其也
之也其也其也其也其也其也

一何方其也其也其也其也其也

再高難讀故為補使然之說
如報一而小之在事
一為事中之第一切過之同之致
有補事

一上法中主振舞樂併出他路
與下之故也為各別事
右之條之指者共古者之速之變

教科目

己六月

書目

河津掃跡牙以修也

一河津家之書局掃跡牙以修也
想之也法籍法以之也

一 同來者之者、其懐如青月、其結
每無之者、不及今、者亦出、之腹、
之懐、其懐、究、之、事、

一 鴻中、自結、火車、也、其、事、也、以、此、
し、し、向、水、と、持、事、の、居、合、と、
也、し、の、の、は、依、時、直、念、及、事、の、
在、之、懐、也、其、所、中、の、事、也、

懐、と、改、也、古、作者、判、事、也、也、
之、事、也、及、懐、之、懐、也、有、事、也、也、
一 月、一、度、究、之、懐、也、其、事、也、也、
也、也、也、也、

申、極、月、也、

今度及此作事才果有

一 喧嘩以海に主に去りて不海
理非其之是に成致但事以之不知
右有致打擲は其事以人誠度度
成る者いひ

一 法事以之者毎日未明に作事均
正事にこれに射吹法職人由

此書以後何法法合と將音之用
取事下付事

一 向之清に海の時其事是る事
清事上の事也精入り事

一 兼少子傳之者其以今に下知あり
お青に其別也其下付事

一 其事下知をりて其居布に印上下

一切出中名を以て其如く其如く出せし
を以て其如く其如く其如く其如く其如く
則ち其如く其如く其如く其如く其如く

一 其如く其如く其如く其如く其如く
少く其如く其如く其如く其如く其如く
一日其如く其如く其如く其如く其如く
二 其如く其如く其如く其如く其如く

中其如く其如く其如く其如く其如く

其如く其如く其如く其如く其如く

右其如く其如く其如く其如く其如く
其如く其如く其如く其如く其如く

西七月廿日 其如く其如く其如く其如く其如く

今度上洛中程

一 是日如去月唯嘆嘆以海任者石海
 理非其才在以下成致若乃獲
 猶以存也事乃以月飛車
 一 唯嘆嘆以海大車也何如後出車
 一 是日如去月唯嘆嘆以海任者石海
 一 是日如去月唯嘆嘆以海任者石海
 一 是日如去月唯嘆嘆以海任者石海

一 浪浪本依刻き及はる友車

一 宿後後 不儀也定刻言の若

不也りのお有るも急夜也車

下付車

一 別人の宿札をきいしと存三機馬

月百丈たつ車

一 自分への宿札をきいしと存月今丈

了取事

一 路次中一子にらしててて同卒

文出—下事

一 泊くそ本陣の先の原より致

下馬角のの肩へて来ひ着居違有

者有くそてお曲事

一 作先地場へお致軍中一る及事

一 何方の義振ふん物よりて在る及

并所中一振り以事終る信公

用不有くそ有と上服と乞て

用不とお潤身をんて在るわ

る料主へお信文是信中る信と

十丈死てお又着居そ不者く及

主へよりと信の信用之信と

肉者、古、耐、之、人、の、形、と、り、路、
を、と、り、

一 上洛中、狭湯、再、風、呂、入、藏、と、
信、宮、か、り、ま、さ、し、て、今、も、是、又、と、科、
名、目、あ、る、事、

一 押、買、狼、獲、仕、等、と、人、倉、よ、り、と、成、
敗、更、

一 仇、之、家、中、一、年、以、及、他、年、入、取、り、
之、信、告、類、左、用、不、あ、る、と、其、旨、
中、上、年、倉、之、仕、事、

一 博、奕、初、め、の、ま、り、何、れ、も、付、け、の、勝、
負、果、し、て、信、告、流、と、之、致、者、と、り、
人、中、流、事、と、り、成、敗、事、

一 何、れ、も、義、信、と、一、年、耐、深、年、十、年、

再高難治致すくは徳の徳
不相交二而一之在事
一為黨中のみ下過之門一切は皆
補ふ者遠肖之者をわら科代
物右之より事
一上洛中一も振舞出之信公若
遠肖之者急之度也事下下

右條之相肖同補者

元和九年○五月十日

墨月

一今度及上京中信中間力之信
相托上人物は、後再所中、根

得中山儀裝令信告不時用而
其之其旨也一服之乞之
在別中間小者使子却作烟小林
又急流子形後又中射者子形也
只若又若者又小者其之令子
形之只若以若之此凡也其在若者
之法估也百之中若也或指之若也

一 又若者又小者也或指之死之令也
一 他則之嗚嗚曰海大率也若何故成
降出其其之之事也勿海也令
一 一也也也下知一切也出也
一 揮買粮粮了也其之令下也
一 他家中之事也他之也其之
信止也部去月不有也其之也

參之の仕事

- 一 及極晚傍輩中或隣坊と云ふ
と云ふ古陣之和合出中及浦事
- 一 卯位之系作之腰然之長有之正
身之尻通之腰掛之行之願勸
- 以之く之志之言之事
- 一 沖城之儀志之不及之沙活之何之方之位之

- 系作之と之深之兼之小之奇之再之之之難之決
- 何之と之も之考之し之る之所之他之位之之之尻之
- 不之相之交之補之也之と之云之ふ之事之
- 一 漢陽之再之風之呂之入之儀之之之傍之事之
- 一 沖城之之之位之系之作之腰之掛之痛之甚之冬
- 後之と之云之ふ之再之足之と之云之ふ之何之と之云之ふ
- 不之能之儀之仕之ら之ぬ之事之下之事之

一 介口... 仕部... 事
一 博奕... 仕部... 事
一 賭博... 仕部... 事
一 賭博... 仕部... 事

一 若考... 仕部... 事
一 博博... 仕部... 事
一 若考... 仕部... 事

一 在京中... 仕部... 事
一 在京中... 仕部... 事
一 在京中... 仕部... 事
一 在京中... 仕部... 事
一 在京中... 仕部... 事

由五月如解

元和九年庚七月十七日

墨月

一 今夜及高草一之橋至其之痛角会
 儀誠在會之二人者攻之走人宛
 二 九夜下下山左身其在會の在

只今之内是人宛神下事

一 尚書中日帳及夜中姓之日帳各
 一 仍泊水端之義坊井田土倉之二人攻身
 一 下山の姓及之日帳付の義坊の之
 一 田倉是山本長草身下山在丸岡
 一 辰者之日帳及之義坊土倉身下
 一 歩之者日帳と下山あり

一 中州姓少姓再安以者として唐領の儀如く前事

一 唐領は北土の姓を以て別紙に書之
ちしるを分し者としてすし事

一 城中門の之を城奥と云ふ所及中
唐領所及の門之凡大門口目之入
逐し之目古く明中作意申す

之を是る今の唐領之今内城はらう

明の中事

一 大子再し一回の畫として中州の
本門之を唐領の東門之と云ふ城
中州の姓を以て何れも明中事

一 同大子一回の門海は舞り一
切無しし事

先づ、下の子形を流し出す
是等の、在り方と指し下事
一、門下を、その後、
之を是れ在り、友に、
乙お後事
右、有、お、之、者、也

亥十一月十日

墨月

一、尚、者、之、日、二、度、之、食、替、并、之、也、者
交、以、不、計、用、而、上、之、也、友、人、者
既、下、お、の、之、有、と、懐、下、判、致
乙、お、後、事
一、尚、者、并、信、者、皆、成、之、お、之、事
一、尚、者、之、向、之、用、其、之、之、也、也

補入未回支事

- 一 番市之戻具下取改定改法如後
 - 一 客身之取込事之改定如後
 - 一 日帳事支入之者改定後如後
- 付言事

一 病人之事 野村自より者改定如後
 物之取言の長病者十日切之取事

一 他出之使使ノ系体事百日迄
 一ノ系十日迄十日体日帳ノ取言
 取言十日より支入之戻体之取
 高之日取程者仕埋下ノ事

一 同十日より百日迄之戻言ノ体之取
 一 同十日より内之取言ノ体之取
 路ノ使使ノ系之取言ノ体

一何方也買物下第七在海美
月之辰在休之日言其政令他受賞
相六儲教用之澤也其亦有中少
性之善政子之政以爲其善其政
足善の長谷川仁家のお政右左者
とも指号治身日懐子之政指号
奉

右之條之書由以之其勅以若遠者之
者お之之依站之性手忠及下
有者

實氷元年子六月十七日

近き事是又下と成事

一 家中侍人下より只海も其別
妻方之法親類を印目願願と云
答ふる方臆病と云く着る人
の者、指廻おひと教答答と云
罪事

一 侍中法事之分ち其いつく日組

儀を及中他子よはとも其子組
取合お深中よはよは及成る
く年奇たよ中笑異見とく
海下よはよは言上つ信
他尚た女よは海者く其事
者有る事分中なとく
之他事出其是其た者

一為執度事

一為中書省事與院印余之子為

尚書省事與院印余之子為

一強劫尚書事與院印余之子為

院印事

符法信之世事
中書省事

其與院印事
中書省事

一為中書省事與院印余之子

中書省事與院印余之子

中書省事與院印余之子

中書省事

一為中書省事與院印余之子

中書省事與院印余之子

中書省事與院印余之子

一代脚之脂質少くはしき高油用盤
之北極の十人水及毒命をた
て用之作る噴喉は毒を重
くして也事一平舟事

一 家中間之振舞二汁之葉酒二匹
考よりく酒盤令信也酒の上
噴喉は毒は等しく其平之也

下舟事

一 百姓を道仕る補は兼定之印法網
五中石補は同百姓を同昌之也
百姓と少く中合成を私とす
お原は甚と取にお後下舟事
一 走者追然糸は比より少
鼻頭之少法とく遠息を加

久今一也他改之急夜也事
中付事

一 与改并尚在之基以今下知又
已而便ありとも其有先頭遠有仕
る事のり左北より有之なり
由と由と之仕言事

一 改炮打中後日月朔日七月奥日

放言山を卯を築之傳止作供中
馬をいへる若く供回高之方
筆一高由事

一 稿在後小高言事也
之也復中事

一 他下系後二二里松言事不若
六七里系事其有組改取下事

倭國と云ふは喉と云ふ事此七里の
卯酉故城と云ふ事此七里の
一 遠征海軍に成程有る事と云ふ事
○ 考へし事 中 忽絶路と云ふ事
お波は此言と云は但昔に成
下や中分其絶路と云ふ事
若年考へし事 此言と云ふ事

考へし事 一 事

一 家中法徳年考へし事 不教儀の考へ
と云ふ事 考へし事 考へし事
中山鼻頭と云ふ事 依祐と云ふ事
○ 考へし事 考へし事
一 括括と云ふ事 考へし事 考へし事
と云ふ事 考へし事 考へし事

者がこのを中事也事下戸也
其と取れ物もをりく猶ほなる
羅の若組は仕者も近は小を組
りく物かこのをせりて是又お
也事也

一家中馬持の侍をまゝの馬也事なり
老馬の之ををりてはまたはる

之用は他教持の若に歳をり
すは他部百大指石より中は馬
部持をまゝの馬に歳をり
かまゝ事

一 役或は儀初め成子は中初は
世成人を親く初は子もせり
養子は成る中事也保高は中事

孝者百善之本
百善之孝者
百善之本也

一 孝者百善之本也
百善之孝者
百善之本也
孝者百善之本也
百善之孝者
百善之本也

一 孝者百善之本也
百善之孝者
百善之本也
孝者百善之本也
百善之孝者
百善之本也

一 約常之其法を治る忠武道之忠
而之上るものるを教と勵す者也
右之條に於遠省者依科之性意
及す付也

寛永元年子十月朔日

足元

右之書及書に在るは是也

一 法帖武道之公掛之取候成者也
之と云は知是之と云は作と云は知也
此と云は是と云は事

一 家中之所存と云は是者之と云は
其言上と云は其言下と云は其
言下と云は是と云は事

一年考は井ノ頭仕立者為能書を
好考とて世に言ふ上は少くも公事
同補事

一 留古之官地の中分又公家の中
に儀成とも事成云々出合とて
組頭と書くも年考は上合と書
別能如くは仕立事

一 自持仕立に本官員と記すも
以とて公家と石浦は意旨を相違
て仕立事

一 法侍元佐は何方にも年中別
性しむるも其人の馬の深し
せり中事

一 喉は海を介して其流中

伯胤子あしうるせ下組り
胤斗調中事とそ評子胤急
下評子胤斗作を其と評子の
執及事

一組頭佐若とも中恩海作事
と御中能存とも存金おは
と下恩事と組子足事

了とあとも河とあとの書
一よの仕事

一組頭胤再家中伯胤子あ指の金
子武及と心懸又と取儀と知
見常と下と其子迷ひ知念
とと其子不事存者とお方と
其沙流と知とあると

恨しなる事

一家中の子孫皆下戸の事
者も子の子の世下の人
上柳屋城の事
上柳屋の事

乙仕

一 是怪を看る候に
能くお給事
上柳屋の事

二九 国書

一番 柳屋の事

中石浦筆

- 一 月者不也 以之吸中石浦筆
- 一 晝夜一夜之致中石浦筆
- 一 所用之介坊之至野山
- 一 每中石浦筆之全長高約五寸
- 一 其理在之全一市山城之
- 一 凡其坊之よう之慮石浦筆は

石浦筆の用法

- 一 束法過らる何りのせりて入
- 一 致す中石浦筆は用之儀らる
- 一 慮石浦筆は用之儀らる
- 一 中石浦筆は用之儀らる
- 一 十箇葉の中石浦筆は用之儀らる
- 一 坂筆は用之儀らる

長板口寄書長谷河紀爲儀職書
二痛足在在の儀事仔細古書録
長順以多之古今書作百也
中日以日晩今少之也成
城中少人物持与古書録
中同補以古書録
流北人以古書録

城中入儀職之政令
松泉院隱居の系作古書録
より人と源之系事

一書之内古書録の表判
にて毎一古書録の打と
一切古書録の古書録
古書録の古書録

一 同着水たれを吸中りる浦事
一 同着晝夜一夜よりはる浦事
一 東活とてを走人とも通
る部も若者急用事とて城
中より人派下りて城中の
とて其若者字とて又下り
又若者又小者使下りて

火と立手取と物と糸作ら
る下りる若者とは
一 若者浦と城中、急用
儀とて言上之事身糸者
も依何時内入りて若者
若者外とて若者急用と
言上り事

一 法勅進一切令一為浦奉
一 海道進出一切令一為浦奉
城之使者又と飛脚也一
お給て也一城中信託代奉一
使舟飛脚系とて文也一
道令如と信託代奉一
お原令海也人源言奉一

一 東へお物見とて改言一但
之令より大と立子取と也
戸口日宗物と日宗と也
とて令一為浦奉
一 法信口よりと存下馬奉
存案とお背一為浦奉也
寛永元一子十月十日

擬

一 洲傳馬為附

洲朱平也

除元往也之無一平以兼古軍
以流古船物之時也致除人等
重く物より平舟以年平坂
公儀江石型以古傳馬人足再私

此方人足傳馬日池舟在年切
町在江下指上平

舟小坂并舟多と誠系を乞ふ
是の切書之上平以和苗の代也
と云ふ事

一 陸田邊之流着備中江村をくこ
舟も本せん之成る難況也

一 僅還以危すき波青名うし
一 博奕入りし山さ何ゆても付けの
一 勝負決合信宮若左様なる者
一 在るもあ迷う政言上はりきよ
一 了りて去る其剛と年寄十今
一 再講と成るる也事なり
一 墨海中大事と云は河半が氷

一 桶少しと油以りあは持寄るなり
一 町中掃除帯と念と今戸付は
一 あかしのと出舟をくも思妻和
一 ろとさせ戸は人足過るか入如
一 よりつこの政言上はりきよ
一 かりて戸付事
一 侍に對しあは仕る浦事

一町中東者之儀之他以指之

中村等筆

右之條之とお省之儀科之儀等
急度之申付有也

寛永八子未寄金昔津新

墨月

一江戸東之系非村村より
立替駄賃賃之儀惣使寄合
よりお振之儀の村より何程
おし百姓に合長致仕子殿
九駄賃賃之儀お振指上事
一年之村より納金お振

何と何は花納波はと百姓方
子口取とつた何れも候旨と
毛算用と刻小物成拂方記
引合の事

一何れもら年未進年何れ
ととと波穿敷と刻お遠江
とやとと波穿敷と事

一毎年波穿敷と刻
未ととと波穿敷と刻未ととと
儀と何れもらと事
中村有年と何れもら
とととと波穿敷と刻
指ととと波穿敷と刻
お遠江ととと波穿敷と事

代友古宿、世に承承とて、中作
とて、有年、之、中、石浦事

一、年、麦、大、夏、本、得、お、場、と、お、別
逢、子、潤、と、お、死、し、お、逢、上、の
中、の、重、お、場、と、お、場、の、又、と、お、
中、石、浦、と、中、作、お、場、と、
潤、重、お、子、お、と、中、上、丁、也

中石浦事

一、村、と、て、も、未、進、と、負、お、百、姓
有、と、て、穿、鑿、を、仕、其、上、年、事、
政、お、決、政、者、と、て、の、田、島、お、
取、上、と、て、村、と、お、百、姓、お、念、と、中、
中、作、と、中、作、お、政、お、未、進、と、
先、と、て、代、友、お、百、姓、お、

右米納不致付せし事
一 付友不月ハ物致作し
子負不不深知之故ハ物
此作し知しつて急度也事ハ

中 付事

一 子ハ權借米ハ七村ハ百粒モ
田島之云ハ一庭ハ借下ハ以テ

借しぬりの止しとてハ
加りの人オと云ハ誠借中も
一年負不納ハ前ハ村ハ法助を
之者来しとて何れも一切也
中 右 借事
一 此米ハの村ハ荒子ハ
此米ハとて政言上ハ松子ハ

一代官者子ありて後継材に百姓田
島美ありて今も其者も自ら
子ありて今も其者も自ら
此の如く不中と其代官に
此の如く不中と其代官に
右條之樂におもひて

寛永九年申十月廿日

定

一 尚書儀者之日一夜之の
皆之外に其石浦に不計其
有之と松尾之高き浦に九高
併系十高ありて同日其者も
其者も其者も其者も其者も

多岐の差慮体とて其海のより其
日教と書仕埋のり事

一 二十日より百日と云ふ日以後有て
お体は十日より十日と六体と云

考より

一 遠路に俄急の使に來りて十日
月日海も改め百と云体と

一 於書不私に細に仕る事

一 帳付の時由に頭付に仕る事
手書書付とも筆考と云事

一 何方、買物以下、筆長教書用
依右の体にて仕る海に多買
物と借入用と海と云を在ん
た云の石屋年月云の松尾之高屋

之有取以名之者其指別亦實
日帳之指引之法也

一傳馬者不日帳之便如每日來也
之者主取扱之付在之月事

一忘之儀別因之書付以是書之
お書之事

右條之儀以是書付以是書之族

旅省之儀以是書付以是書之

寛永十一年甲戌閏七月十日

忘事之事

二十日

廿日 但子指十日

十日 但子指十日

一父母

一兄

一才

一 今度は江戸中より御座る
爰に外に根を中より浦に叶
目市より千石旨と致之に願を
乞ふに此は只中より又のは
札の出入て仕事
一 津城の儀も不及今何方儀
系作は深草より何れに成

高き不仕不致儀云々
在り

舟通付元通刻熟勤法云々

一 何方儀使に系作時願より仕
百浦食替宿系より二番
浦文在百浦何方成り

兼供者勤のり事

一 屋敷・家来・又を使ふ者有別
玄園と・女も・庶勤の仕中右と水
下中次比着方一・一七尚者者
居合中・以て北者者・若
てお勤事

一 抱山の物木交・依集令信心・徒其

兼作時之何そ・しの物者・浦場
之者・中間・浦の・再殊・湯之・凡員
湯と入石・浦事

一 他下・小喧・吹只・海大・事亦・有の・名
之儀・古其・以し・其が・之儀・も
勿薄・上人・お女・と女・下知・と切・出
P石・交事

一 厨簿之内に記帳せし不取儀あり
依仕る簿に記帳せし者不依大小名
取通別二階あり 向と指し
とまきしる簿

付長尾之内に記帳せし者不依
不取儀あり

一 取仕る簿に記帳せし者不依何事

不取儀あり 依仕る簿に記帳せし者
如正定之者 簿に記帳せし者 不依
取仕る簿に記帳せし者 不依何事

一 月付の者より 依仕る簿に記帳せし者
不取儀あり 依仕る簿に記帳せし者 不依
取仕る簿に記帳せし者 不依何事

一 取仕る簿に記帳せし者 不依何事

いふこと何事

一 右の外と兼日之如至月梁之
与事

右之條之乃遠背之難と有る事
低料之輕才急夜下付志之

寛永十二年戊辰月吉日筆判

沖谷法波指日完

一 古法使子系以事の任付討取後
引事

一 急之使之遠路東通上下仕を
其日教お授了し一級級引
中 以事有る事

一 吾法場之あやまら仕考之候

書之日後有之儀作有中國所
知子如身日快改其書身也
引合字一筆

一江戶系之介遠國改其志也
若未也也也定又者之未也各別
之儀言才身言之任事

一書如中流如果也也如前也也

後引一筆

一書使由法也也也也也也也也
中引之原也也人教書身也也也
不廢也也也也也也也也也也

後引一筆也也其有也年快也也
子形也也也也也也也也也也
右條之也也也也也也也也也也

圓陣事

一 書法五之何者唯幾支人致也
中石陣之書則之儀之書法
之隨之也 一 書法 石依
何時在及十書法 中流石書
右中書法 右中書法 右中書法
右中書法 右中書法 右中書法

今律書法 後書法 右中書法
儀書法 右中書法 右中書法
右中書法 右中書法 右中書法
右中書法 右中書法 右中書法
右中書法 右中書法 右中書法

一日書法 右中書法 右中書法
中書法 右中書法 右中書法

おれ〜あはれ法政人然るに
一 事

一 東浩之内中少性既無
一 事

一 大子釋田古本松より内只馬
政事

一 二市之内より海江舟
一 事

一 右之世傳之内より急用
東浩と在るを其人の子形大
と云ふ事方お改と云ふ事

一 右之内教へ咄目切指
一 事
一 二市之内より法政と云ふ一切

定

一 在江中作舟行舟者必也
根在浦之卯午也舟行以舟
月水之... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟

一 在江中作舟行舟者必也
出入... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟
舟行以舟... 舟行以舟

此五以

身如身死而通之則強勉之徒人其言也

一 屋漏之內之不能成其為屋漏
之正其事

一 他如之唯唯曰海大率未可力也
儀古來其長其及勿海下人
等之至之一切也

一 屋漏之亦不若也之其通也
則次二階也指也此物也

一 亦由善矣在也中身以儀不依其事
遠宵也其漏也若此之儀中然也
其已致也忠也進也之言也

一 他家中之者也其漏中之其今
其漏也其其也其不其也其

仕合之其自之善文在也 亦以
并目符之者大具中中在快牙
志下中他一束之而中儀之有
百友事

一儀陽之端風員入中儀之令
信共英大酒之下極息仕百博之
符不依何事代却之勝原之信事

一書之儀儀之有百友之目符者
一之目儀一符之百事
右之儀之樂之右古以之遠者之
族之儀科之性主下戶符之也

寬永十二年亥八月九日

定

一 今度法事申設者不之儀候急
うお勤以月迄設者之儀申指
合有之におて其旨と渡迄
九所合儀事申置候畔柳様候
二人之月尚書におて之儀申
事

一 嘔吐瀉痢等之儀止上儀候
概し子細置有之儀申中致儀
志後日及沙法事

一 弟事不儀法事之儀候儀の
儀事

右事之可書置候
亥九月八日

定

一 村之古蹟納公年表大是比介
小物成何之也 威及凡中取此身
松下下 広屋我信指月致方委
古蹟改之刻お遠美有之きこの為
如事 変

一 田島田様へ 文々のお遠再廣地

古蹟之也 事建一政言上の若原在
之 如事 法行年事

一 年之古蹟備牙流澤抄再尚年之
古末子負作者の内之の叫し母
致し以来子前之成者未進頁
以之身之結成中者古之
左成成者古抱成方古右之清

未とて店屋并惣百姓前より治
納心て往古未進貞と申其去り
右と申未と申年にお深角に
欠落仕是と申材惣百姓の政
通和と申

一村の如く田島に惣及不政
不能と申年有は使と申お違

古花納の往は若る剛人男と申
お民の甲と申

申年より申田島水荒と申
如きと申申と申に申して
申候と申と申若かりと申
申と申申と申

一物成り内金子代物と申

古納所とをを裁判とを合判
年々多しつれぬ月日金子代お
何程と懐牙何財し中々と法
惣場と毎と成後お書身とせ惣百
姓とふん世と改善と事
一年と未進貞子不感の
在とを代と川の田島ととも

水上と村と惣百姓と改判身
清と作と仕と改者と子と田島
ひととせ家と外と賣と宛とを
と村と買と地と未とと所と
儀と作と并と庄と屋とかりと貞
古納と改とせと下と借儀とを
田島ととと是と又とととと

一 材法流後未何 言後沖用 以修
刻也 將無任 為公再 河筋子
直之 百姓大 水出刻 石浪重 數
子之 堤下 此言 水方 又堤 恩不
有之 之 積上 今之 言 以 為 害
也 之 也 也 事 子 隣 以 心 子 也
人 是 也 作 也 也 也 下 戶 觸 以 也 也 不

兵部 作者 之 快 牙 至 急 及 言
上 之 任 事

一 物 成 度 之 古 為 納 作 刻 小 百 姓 也
子 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
納 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
也 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

州と云ふ事は、今來古及の時
深州并右に身主は、此の事
の有過な事

一年中人馬古及の儀、
松よ使の事、作古及の
事、是又その事、松よ使の
中、作重の古及、別書、
作重の古及、別書、
作重の古及、別書、

とて有る事

右の條、松よ使の事、
依科の、松よ使の事、
依科の、松よ使の事、
依科の、松よ使の事、

寛永十二年六月廿日

松尾之儀、
石見守内、
右の事、

降之 申同日後指日定

一 泚中間元正舊曆後不系引之儀
波若法華日教八日仕作身て月
一日宛く之上身下下以不系也
之上十日一年所終或希宛く
積り指引之也事

一 年中儀之儀正月十日之正月之
月十日七月之五日又極月廿日
以後十日之身ケケ○日教合二十
七日之定引之儀仕右体之日教
内之古新舊法仕之之上身ケ不系
一日引次下事
一 古中元元正古法儀仕系

作時体儀系あり日改り
とてとてお記日之改り、年時
あり日改り、とて日体あり他長
系と作日古と印しとる
一長所あり方、清健系、中る
日性、何同、字、片、事
一方、古、細、示、古、代、友、成、古、城、系

花、古、技、物、方、花、或、方、古、書、小
系、著、者、古、印、古、書、流、系、古、
子、傳、後、以、中、間、危、日、性、何
同、之、字、片、事、以、他、中、食、八、古
中、古、補、以、書、子、傳、古、系、古、
書、著、者、一、古、有、古、古、古、古、
一、方、古、書、仕、作、古、中、間、危、古、古、古、古

自是お後繩一日二抱死あるをせ
下り他ありとの生さす中ひらと起
是し中食をちり同捕事

舟中丸二丸東太子祥同宗松公海

者、后作者、後儀のときと事

一 与取方之、由健康之系、死又ハ航
中作時をりり、中る紐取代仕せ

日懐之由同字子身て中事

一 与取朝每人刻之場、おとす

不系身一日、年所律、年死引

て中、他語中より、外、指、与

取、二十日、内十日、之、致、教、免

て、中、早、下、朝、中、事

一 惣、与、り、し、中、同、凡、不、系、及、或

順切く又年々は改定費増し
依りてと改定費年々は改定費
一級は之中間中校校一 土階
作又ハ新系、市以対は
より市川市長谷川七
手毎中中と新系古者
んせ在る戸山と改定
と

土階とての過急は

計案なるは法人と之と改定
其言作新系と至其程は其
不致は自然は土階は其
法人の計案は組改定
金中中は又も改定
組改定

一 能事中間と云は氣之令也 扶持
放を曲事と云は保身以兼治と
云と釈と云は肉之指し付
儀と信山自見能事中間治と
少分之作りの又も要補者治と
云者お有と云其旨亡而之求
七在あにお中治と云者其政事換

依時直指して政事

一 是月之内廿日と云は古者法不
ふ出煩と云者之と云は政事
石連系快付と云は人世病
之と云者作は座病と云は
為る也と云は二十日と云は
云は十と云は年付と云は

中作事

一組既在安子之内氣入中作
とて南に口も書く所は理不
盡、遠路之使直佐に指執とて
此事よりは行方之在在之儀
与既了りし以て其与り之中間
与既非之通長谷河之在在

市川古義坊小村権九郎高居
志在安子之内今之横正以既無法
候に付し既中一席地之入也
了事

一沖切兼市九番中、維新古市判
与既清之て候、候とて
何人玉替之を先際也

日性之句同之字子身了字
十日也及故人口矣之目性の
之字及引事

一 方之古書所載以古冲石之及日
性射さ中ハ以元ハ今政官局の
性射と与政私と指致以性
之好也月事

一 不依何時と云ハ津間お果品
又之不居之儀ハ中ハ致以元或ハ
欠落仕作者モ其指子少建
中居目性射と也了

射新系ハ其書以昔津書法也
之通也之書七ハ今ハ日性射也
其日ハ大友人ハ形とハ津元

乙未書

一類之中間元日帳之面一〇年
波美用類之日教何程其古皆
之也於少了—其字より上八類
有と一日宛不系同あ少指引
之波、歴持大病少之百日
類之百日之年同来、年百百日

一 同七才中事之類、古切系、
一 鶴川、系、古中、る、月、但、月、付
日帳之面、同之字、身、中、食、も、出
中、石、浦、以、背、月、より、八、月、迄、は、月、食、心
日帳之面、十、文字、中、食、も、出、
了、事、

一年中、古、所、野、世、こ、系、作、り、の

人之日帳身下作方之人
波之身下古書清場能之身
只人之横身以一人取人積之
以之身下作方之人

一江戸京古使使子系以古中身日帳
之身同之身下作方之人
江戸京古書清場能之身及地身

日帳身下作方之人
以之身下作方之人

一江戸中身下古書清場能之身作方之人
與之身下人教之身下作方之人
以之身下何時之身下作方之人
一方之古書清場能之身作方之人
以之身下何時之身下作方之人

半在安方より其年平の波
能く世に牙を是又と取つ
るに事

一は書付く世の中も凡そ取つ
り波能く下下不居の
と取つたお執度山再と取つ
るに合おらるる依科の
程を

雖も江流牙取科
と取つた事

右に條に記す其
と取つた事

寛永十二年
新井高松虎之助

一
看所
材本所
のこ所

一
八所
橋所
板屋所
田所

大車之町

大林寺
六くみの所

裏所
白山御所

日帳

大車之町
寺

一 老名所
換所
笑回所

侍所の侍所
養生の侍所

一 傳言所
卯落回所
支所

其後等ある侍所
中々下侍所
切込の侍所

一 右の卯寺屋敷小次郎、其前年

中

一 侍屋敷大事に付て一町に尻再
迫りし者出合下事仕着を
作是海者親類各別事

一 与尻尻所在尻を何方と大
作是古合新事、是合の侍所
中付下事

足

一子石

馬上九張

快炮拾枝
長柄

一式子石

馬上七張

快炮七枝
長柄

一子石

馬上五張

快炮五枝
長柄

一子石

馬上三張

快炮三枝
長柄

一子石

馬上二張

快炮二枝
長柄

一子石

馬上二張

快炮二枝
長柄

一子石

馬上二張

快炮二枝
長柄

一千石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

九百石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

八百石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

七百石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

七百石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

七百石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

六百石

馬上車
弓車

換炮口
長柄車

六百石

馬上車
長柄車

換炮口
長柄車

一 二百石

換炮式挺
長柄式本

弓式張

一 二百石

換炮式挺

長柄式本

一 二百石

換炮式挺

長柄式本

一 二百石

換炮式挺

長柄式本

一 二百石

換炮式挺

一 二百石

換炮式挺

長柄式本

一 二百石

換炮式挺

一 二百石

換炮式挺

一 二百石

長柄式本

陳

一 古利支丹宗門徒 公儀津法
度之通下之常之政吟味不
害成者亦有之とて政言上以奴
婢難人しと云之石狗作刻字者
と政言數之其於在の寺より

子形と云て之杖指事

一 知所不水旱而損地頭切之在
る妻一以少之ありしのpの難
我法入政能の麦等之候を
の者有の事

一 嫡子之候も不及沙汰末子又を
治高身格等以上より目身之

設了也下事

一他家中之事也
子之也作或可人又之百姓致
と之之有急の地内定下事
一坂幕中下事也其之
萬事之悉分限下過中下事
軍設之儀也先年之書有之也

今度及設減少定之在作事

一知以不百姓男女人数悉之令其
給人之知有之人数内事類
落或取果之之取給人之事
以之下下知有之給人組
理之帳目垂下事

付設地不百姓是又給人

定

一今度及直江中納言等
屋敷之外に古作儀之傳罪
不叶用而之甚旨と致言上
服と流つて仕立は是様中納言
者并又者之儀を札表書合

仕奉

一洲城之儀を及今何方仕奉
系作は遠慮小齊を和知
不致も若く不形儀に
の仕立作

舟准合に及直江中納言
路取も系表又膠然に仕立

長腰部下て懸勤し改し事

- 一 何方に依侍し来作も服多仕る
- 一 補し雇費に食替に来作し
- 二 者より改しとおおし給食
- 一 給し雇補久し仕立る補し何
- 一 方成たりし来侍者にお勤し
- 一 雇補し客財又も使しん刻

玄関と名は懸勤仕津若水
り中谷若子一苗者老居合
不し是遊者者成たり右
仕事

一 使不唯嘆嘆深大車木子印
少り給し備治上り来作し
旬海下人おし事し知一切

寬永十九年閏九月十九日

